

発達障がい研修

受講者188名

日時 令和5年5月2日 6月14日 9月20日 10月11日 計4回

場所 子ども支援センターげんき研修室

講師 心理士：前川圭一郎氏 藤原彩子氏

【内 容】

「個別支援目標の立て方」「園生活支援シートの書き方」「気になる子どものかかわり方」をテーマに講義やグループワーク、動画視聴やゲーム、ワークシートを使ってのグループディスカッションなど様々な手法を取り入れた研修で学びを深めていった。様々な事例から保育者としての配慮や視点について考えるとともに、自身の保育を振り返る機会や他園の保育を知ることで視野を広げ、日々の保育実践に活かしていけることをねらいとした。

【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

〈個別支援目標の立て方〉

・長期目標から短期目標を立てる際に抽象的から具体的な内容にすることが大切であることを学んだ。具体的であることで誰もが評価しやすく次の目標を立てやすくなることが理解できた。これまで立ててきた計画をもう一度見直してみたい。また、保育の中での言葉がけも抽象的な表現が多いので、具体的に伝えることを意識していく。クラスの保育者にも報告して、一緒に考えていきたい。

・保護者と共に目標を設定することで、園と家庭と同じ方向を見て発達を支援できるので、保護者とよく話し合って設定していけるとよいと思う。

・1歳6か月健診、3歳児健診の健康診査の内容を具体的に知ることができた。発達段階を把握しておくことで子どもの現状理解につながり、目標設定に役立つので資料として役立てていく。

・保育場面に相応しい声の大きさについて学ぶことで、自身の保育を振り返ることができた。幼児クラスでは大きな声になりがちなので、園内で共有して相応しい声の大きさを全員で意識していきたい。

〈園生活支援シートの書き方〉

・これまで書き方が分からず不安なことがあったが、この研修でよく理解できた。保育者間で共有して誰もが戸惑うことなく書くことができるようにしたい。また、すでに面談を行い目標設定をしたが、もう一度見直してよりよいシートを作成したい。

・保護者の思いをくみ取り、連携して発達を支援していくこと、また園内では保育者の意思統一が大切であることを学んだ。そのために保護者面談の前には保育者間の話し合い、事前の準備をしっかりと行っていこうと思う。保護者と面談する際は傾聴を心がけ、言葉がけに注意していく。

・「おおらか」と「無計画」の違いの講義が心に残った。再度シートを見直し、子どもにとって何をしてあげることが必要なのか、よく考えていきたい。

〈気になる子どものかかわり方〉

・気になる行動があると「困った」と大人の視点で考えてしまっていたが、困っているのはその子ども自身であるということを常に忘れないようにする。気になる行動だけに目を向けるのではなく、その背景にも着目していく。

・「気になる」という言葉はよく聞くが、保育者が変われば子どもたちも変わる、変わるのはまず保育者自身であることを実感した。禁止する言葉ではなく、してほしいことを具体的に伝えたり視覚的に理解できるようにしたりする。ポジティブな言葉がけを心がける。自分の行動や言葉かけが、子どもにどのような影響を与えるのか、よく考えていきたい。

・よい行動を増やすためには褒められる経験や、子ども自身がやり遂げた実感や納得感が得られる環境設定やかかわりが大切だと学んだ。子どもを褒める時は具体的に、行動の直後に褒めていく。子ども一人一人の理解に努めて、その子どもに合った伝え方、言葉で褒めていきたい。

・保護者に子どものできない姿を伝えるのではなく、褒めたこと、どのような言葉かけが望ましい行動につながるのかなど、前向きな伝え方をしていく。